

# つなかつ

TSUNAGARI

No.32

題字：土屋 智広氏 (サンフレンド)



小牧市地区民生委員・児童委員連絡協議会

小牧市堀の内三丁目1番地 小牧市役所 福祉総務課内



「陶地区の子ども食堂(∞無限堂∞)の様子」

昨年一年を振り返りますと、5月に新型コロナウイルス感染症が5類に移行され、行事やイベントも徐々に復活して子どもから高齢者まで、地域に笑顔が戻ってきています。そこで感じるのは対面でのコミュニケーションの大切さです。直接お話することで相手の気持ちや求めていることを細かくくみ取ることができたり、お互い身体を動かしてリフレッシュできたりします。そこで人とのつながりが生まれます。しかし、日本経済に目を向けると、物価高騰の波は留まるどころを知りません。また孤独・孤立の問題が深刻化していることから、地域の人のつながりが重要であることを改めて感じます。

お互い助け合って難局を乗り越えていき、持続可能な社会の構築につなげていきたいと思えます。

(文 広報委員)



# 活動ピックアップ

## 【小木上区】安否確認訓練

小木上区では、地域の要支援者（災害弱者）の見守り活動の一つとして、避難行動要支援者台帳を活用した安否確認訓練が行われました。

### 訓練をやってみて

大きな地震や台風などの災害はいつ起こるかわかりません。いざというときに自分だけでは避難が難しい方を支援できるように、口ごろからの訓練や見守り活動は必要だと思っています。



訓練当日は、組長や実際の支援をしていただける方にも協力を得て、支援が必要な方の自宅を訪ね、声をかけていただきます。今後とも訓練を地道に続けていきたいと考えています！

北里地区民生・児童委員  
舟橋 郁夫さん・小林 一子さん

### ◎ 安否確認声かけ訓練の流れ ◎

「災害時要支援者」毎に「支援者」を決定

「大規模災害(地震の発生)」と仮定

「支援者」ご自身及びご家族の安全の確保を最優先

「支援者」が“安否確認”のために、要支援者を訪問

所在不明

要支援者の安全を確認

救出・救命が必要

自宅で生活が可能

避難所への移動が必要

消防署等に要請

地域の災害対策本部に報告



▲被災者を車いすで移送



▲支援者から本部への報告



▲訓練後の反省会



▲消火器使用訓練



※制度の概要は次頁を参照

災害の発生やその恐れがあるときに、自力で避難が難しい高齢者や障がいのある方などに対して、災害(避難)情報の伝達や避難場所への誘導など、区、民生・児童委員、自主防災組織、地域住民の方など地域が連携して支援をする制度です。

### 避難行動要支援者支援制度



■避難行動要支援者とは

小牧市では次の方を対象とします。

- ①介護保険における要介護度3以上の認定者
- ②身体に障がいがある方(身体障害者手帳1級〜3級をお持ちの方)
- ③知的障害がある方(療育手帳A、Bをお持ちの方)
- ④右記以外で、自力避難が難しい方(ひとり暮らし高齢者・高齢者のみ世帯等)

■支援を受けるには

地域団体等への情報提供に同意される方は、「避難行動要支援者情報提供希望者調査票(兼申請書)」により直接、小牧市福祉総務課まで申請をしていただくか、地域の民生委員・児童委員にご相談ください。避難行動要支援者台帳に情報をまとめて、地域の支援者となりうる方に提供します。

※この制度は災害時の状況によっては、支援者も被災者となり得ることから、災害時の支援が必ずしも保証されるものではありません。  
※支援者は、避難支援に関して、その責任を伴うものではありません。



【問合せ先】  
小牧市福祉総務課 76-11196

ま ち の 声

ウォーキング大会



篠岡地区民生・児童委員  
岩田 良子さん

光ヶ丘小学校区地域協議会が発足したのが令和元年なので今年で6年目に入ります。「地元を知ろう」をコンセプトに開催しているウォーキング大会は4回実施しました。参加賞なども地元にごだわり、エースベーカーさんにお願ひしました。以前は昼食のおにぎりも、くりの木ランチさんにお願ひしていましたが閉店となり、今は私たちの部会で福祉事業として推進している移動販売を担っているローソン100さんにお願ひしています。昨年度は参加者も200人を超え、地域に浸透してきたのを感じました。

今年度は「光ヶ丘ウォーク2023 in 四季の森」と銘打って11月25日(土)に開催しました。ゆっくり歩いても小一時間。スタンプラリーをしながら歩くことを楽しみ、昨年同様たくさんの方に参加していただき、秋の一日を過ごしました。



進化している地域



北里地区民生・児童委員  
舟橋 美佐さん

“おはようございます”“平日の朝、元気な子供の声！”  
登校に地域の大人の方々の見守り隊の姿があります。

近年、地域のつながりが薄れたといわれていますが、児童と地域はつながりが強くなってきてると感じます。

そして、ひとり暮らしの方や、高齢の方々も、ふれあいサロン、老人会など、月に定期的集まる楽しい交流会があり、私たちの声かけにより、きずなが深まりつつあります。

三世交代交流会のような行事にみられる各世代の役割が見過ごされないように、地域みんながより強くつながれるような意味のある行動になっていくことを期待したいですね。

